

心臓CT検査における前投薬に対する説明書・同意書

【茅ヶ崎市立病院病診連携用】

1. 検査の方法とその特徴・放射線による影響について

心臓CT検査とは、コンピューターと放射線（エックス線）を使って心臓を栄養する血管の画像を作成する検査です。通常的心臓CT検査では検査を受ける人に放射線による影響はほとんどないと考えられていますが、心配な場合は主治医にご相談ください。なお、妊娠中や妊娠の可能性がある場合には放射線および造影剤の胎児への影響があるため、基本的には本検査は行えません。事前にお申し出ください。

2. 造影剤について

この検査ではヨード造影剤を使用します。『ヨード造影剤使用（注射）の説明書・同意書』をご参照ください。ヨード造影剤の投与に同意いただけない場合は、心臓CT検査は行えません。

3. 検査前投薬について

この検査では、検査当日にベータ遮断薬（セロケン・コアベータ）と亜硝酸剤（ニトロールスプレー）という薬を使用することがあります。

（1）ベータ遮断薬

ベータ遮断薬は、自律神経の働きを抑え心拍数を下げ心臓の動きを抑えるとともに血圧も下げる効果もあり、高血圧や狭心症などの治療に広く用いられている安全性の高い薬です。心臓CTにおいて心臓の動きが早すぎると、画像がぶれて十分な検査を行えない恐れがあります。そのため心拍数を下げて心臓の動きを抑えて診断に必要な綺麗な画像を得るためにベータ遮断薬を使用します。

検査1時間前に来院していただき心拍数や血圧を測定します。その後、医師の指示で内服薬（セロケン20mg）1錠を内服していただきます。内服で十分に心拍数が低下しない場合、静注薬（コアベータ）を投与することがあります。

ベータ遮断薬の副作用としては、過度に脈が遅くなる、血圧が低下、心不全が生じるなどの循環器系の症状、めまい、倦怠感、眠気、頭痛などの精神神経系の症状、発疹などの過敏症状、息が苦しくなるなどの呼吸器系の症状、吐き気などの消化器系の症状などが生じる恐れが僅かながらもあります。

（2）亜硝酸剤

亜硝酸剤は、冠動脈を拡張する効果があり、狭心症などの治療に広く用いられている安全性の高い薬です。冠動脈を拡張し、診断に必要な綺麗な画像を得るために亜硝酸剤を使用します。副作用としては、血圧低下、頭痛などの症状が生じる恐れが僅かながらもあります。

4. 検査に同意された方は、下の同意書に署名、捺印のうえ検査当日にお持ちください。

患者様が未成年や意識障害のある場合は家族や代理の方でも結構です。

印がない場合は署名だけでも有効とします。

令和 年 月 日 紹介元医療機関名

説明医師

印

心臓CT検査における前投薬に対する同意書

私は前投薬に関してその必要性和副作用の可能性について説明を受け理解しました。

私は心臓CT検査に必要な前投薬の内服・静脈注射に同意します。

また万一、副作用が表れた場合には必要な処置を受けることを承諾します。

令和 年 月 日 本人のご署名

印

家族等、代理の方のご署名

印（続柄： ）

※患者本人が未成年者や成人であっても判断能力が十分でない場合には、代理人に署名される方が本人欄を代筆ください。